

まえがき

本研究は「統計学における理論と応用の総合的研究」と題して、平成12年度および平成13年度の文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(A)(1)の交付を受けて行ったものである。研究分担者及び研究協力者は、日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会、日本計算機統計学会、日本行動計量学会、日本数学会統計数学分科会の会員の方々である。具体的なテーマは次のようであるが、それ以外のものでも重要なものは研究に取り入れた。

- (1) 多変量解析と漸近理論に関する新展開
- (2) 統計学におけるインターネットの高度利用法の研究
- (3) 環境統計データ解析の研究
- (4) 多変量グラフィカル法の研究
- (5) データマイニングにおける統計的方法に関する研究
- (6) 計量経済・計量ファイナンスの諸問題
- (7) データの表現法と解析法
- (8) 因子分析と共分散構造分析に関する諸問題
- (9) 非線形モデリングと現象解析
- (10) 計算機統計学とその医学・生物学への応用
- (11) マルコフ連鎖モンテカルロ法の応用研究
- (12) 高次元データ解析の研究
- (13) Quality of Life の研究 (順不同)

本報告書は、これらの研究課題に関する研究集会での発表内容および、研究成果をまとめたものである。また、研究分担者の研究成果の一部を追加して載せてある。これらの研究成果は21世紀の統計学の大きな流れを形づくり、各分野の統計研究者・実務者にとっても示唆に富んだ内容を豊富に含んでいると確信する。

本報告書をまとめるにあたり、この2年間多大なご協力とご支援を頂いた研究分担者の先生方、研究集会に参加され実り多き研究発表や研究討議を行って下さった先生方に、心から厚く御礼申し上げます。

る。私は3月11日から病気療養のため2週間入院しなければならなかった。本報告書は、年度末の3月末までに、内容をまとめて製本の予定であったが、その仕事を始めた早々に中止せざるを得なかった。実際には外出が一切認められないような厳しい状況が続いたり、高熱がでたりで、入院で十分な時間がある筈なのに仕事どころではなかった。唯一できたことは理工学研究科委員長として17枚の学位記に署名をしたことぐらいである。そのような状況を見て、中央大学大学院理工学研究科博士後期課程の竹田裕一君が手弁当で私に代わって研究分担者および研究協力者に連絡をとり、製本屋に原稿を渡せるまでの仕事をしてくれた。研究代表者として、竹田裕一君に御礼を申し上げる。また、本研究の実施に際し、中央大学理工学研究所の事務職員 荒木英子さんには会計事務、書類作成等さまざまな形でご協力を頂いた。副課長としてご自分の仕事をしながら、献身的な協力をいただいた荒木英子さんに心から感謝の意を表したい。

平成14年3月

研究代表者 杉山 高一（中央大学理工学部）